



ライブラリ・コネクト・ニュースレター日本語版
Volume 7 ■ Number 2 ■ April 2009

日本語版では、英語オリジナルから主要な記事を
翻訳してお届けします。

図書館員のみなさまへ

情報専門家として、私たちは常に製品やサービスの価値を明確に伝えようと努めています。特に経済情勢が厳しい現在、価値を伝えることは、ますます重要になりつつあります。

では、価値を伝える最善の方法は何でしょうか。もちろん一度にすべてに対応できるような方法はありません。まず、お客様が何を本当に必要としているか、どうすればそのニーズを満たせるか、製品やサービスの効果をどのように明確にし、測定するかを理解する必要があります。次に、他の人が容易に理解し、評価できるような説得力のある現実的な形で、1人ひとりが価値を物語って見せねばなりません。

価値を伝えるという魅力的で複雑な問題に対応するため、本号ではさまざまな視点をご紹介します。以下は、収録されている記事の一部です。

- ダニエル・カルト (Daniel Calto) : エルゼビアの新製品である業績計画・資金調達ソリューション
- ジャック・マネス (Jack Maness) 氏 : 大学図書館が研究者の時間と資金を節約する
- デニス・パン (Denise Pan) 氏 : 大学においてリーダーシップを取る
- デヴィッド・タイコソン (David Tyckoson) 氏 : カリフォルニア州立大フレズノ校が新しい図書館を開設
- シャオグアン・ヤン (Xiaoguang Yang) 氏 : ロビーイングで運営母体に図書館資金を求める方法

また、利用、支出、研究成果の関係についてのインタビューでは、イアン・ロウランズ (Ian Rowlands) 氏が「科学コミュニティ全員 (学者、出版社、図書館員) が、そのもたらす付加価値をもっとアピールできる」と語っています。

まさに行動を起こす励みとなるような同氏の発言で、私は筆を置くことにしましょう。いつもながら、この激動の時代を乗り切るために有効なアドバイスや見解を本号にも数多く見出していただけると確信しています。

執筆者全員にお礼を申し上げます。どうぞお読みください。

シーラ・タバチニコフ (Shira Tabachnikoff)、エルゼビア、コーポレート・リレーションズ
担当ディレクター、オランダ・アムステルダム

✉ s.tabachnikoff@elsevier.com



Shira Tabachnikoff

テーマ：価値を伝える

日本語版目次

features

2. 今年10年目を迎えるScienceDirect
3. 関係を見つける：利用、支出、研究成果
5. エルゼビアがSciValを発表：業績計画・資金調達ソリューション
6. 厳しい時代に新しい図書館を開く：その理由と経緯
8. 運営母体に図書館資金を求めるロビーイング：明確に意思を伝え、図書館擁護者を活用する

center of attention

9. 大学図書館が研究者の時間と資金を節約する
9. 図書館と図書館員の価値を伝える：大学においてリーダーシップを取る

behind the scenes

10. BrainNavigatorが、これまでにない明確さで脳を視覚化

staying connected

11. Rights Spot : 出版倫理に関して、エルゼビアはどのような立場を取っていますか？
11. 学術関係者が論文出版を成功させるアドバイスを交換
12. Ask UCD : ウェブサイト・デザインの価値は、どのように宣伝すればいいでしょうか？

今年10年目を迎えるScienceDirect

英文オリジナル2ページ

リンディ・ベルフィールド (Lindi Belfield)、エルゼビア、シニア・プロダクト・マネージャー、オランダ・アムステルダム

当時、まったくの新参者だった ScienceDirect が発表されてから 10 年が過ぎたというのは、信じ難い事実です。ワールド・ワイド・ウェブを通じて世界の文献にアクセスできることは、研究者の作業を革命的に変化させました。



Lindi Belfield

ScienceDirect に関わった者にとって、1990 年代半ばから 1999 年の販売開始までは非常に胸躍る時期でした。このようなデータベースをどのように構築するのかについての青写真はありませんでしたし、ユーザーから何を期待すべきかを教えてくれるベンチマークもありませんでした。ですから、利用がうなぎ上りに上昇し、数カ月ごとに期待を上回っていくのを見て、すいぶんと興奮したものです。

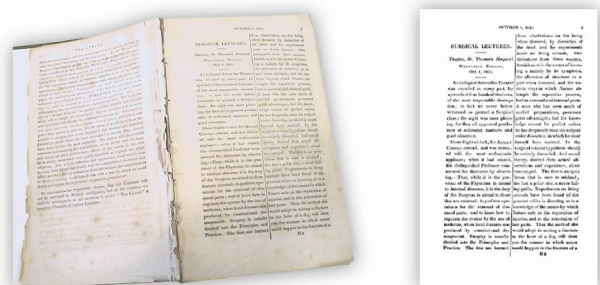


販売開始以来、これまでにダウンロードされた論文数は 20 億を突破しました。現在、世界のどこかで毎分 925 件もの論文がダウンロードされています。10 年前、私たちは平均 CPA (cost per article used / 使用される論文 1 件当たりのコスト) を約 16 米ドルと計算しました。現在、ScienceDirect は、いつでも、どこでも、どんな場所でもアクセスできるようになったため、平均 CPA は 2.40 米ドルにまで下がりました。これは、図書館の提供する学術資料の利用が増えたということであり、図書館員にとってよい知らせです。

バックファイルの挑戦に挑む

ScienceDirect の歴史上、最も手ごわいプロジェクトの 1 つが、1995 年より以前のエルゼビア・ジャーナルのコンテンツの大半をデジタル化するというバックファイル計画でした。たとえば『The Lancet』は 1823 年に遡り、これまで 50 万件近い論文を発表していることを考えて、このコンテンツの量を想像してみてください。

1823 年、第 1 巻、第 1 号の『The Lancet』

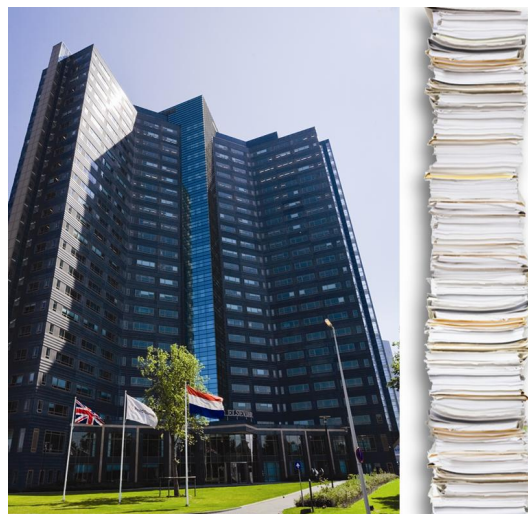


処理前

処理後

このプロジェクトは完了までに 6 年かかりましたが、おかげで ScienceDirect は現在、400 万件以上のバックファイル論文を提供しています。原本を見つけるだけでも、大変な作業でした。地下倉庫や編集室を引っくり返し、編集長は見つからない第 1 巻、第 1 号を求め

論文 900 万件の量を捉える



アムステルダムにあるエルゼビアの Radarweg ビル 25 階建て 98 メートル

- 論文 900 万件
- = 7,500 万ページ
- = 両面 3,700 万ページ
- = 4 キロメートル以上
- = Radarweg ビルの 45 倍

ScienceDirect に搭載された 900 万件の論文を積み上げると 4 キロメートルを超え、アムステルダムにあるエルゼビアの Radarweg ビルの 45 倍の高さになります。

て、あちこちに依頼状を書きました。デジタル化業者への最初の荷物は、4 つの船舶用コンテナと 2 つの航空貨物用コンテナ一杯になりました。しかもそれは第一歩に過ぎませんでした。6 年経った今でも、まだ見つからない号があります (全体の 0.2% に相当する約 500 号)。私たちは、世界の図書館や大学と協力して探しており、あきらめるつもりはありません。もちろん、バックナンバーを見つけた後、デジタル化する前に修復が必要なこともあります。左の『The Lancet』のページの写真をご覧ください。

現在の ScienceDirect のサイズ

ScienceDirect では、数字が大きな役割を果たしますが、ゼロが増えるにつれて数字は意味を失います。ScienceDirect の 900 万件の論文は、どんなふうに見えるのでしょうか。実は、これらの論文をすべて積み上げると、アムステルダムにあるエルゼビアの Radarweg ビルの 45 倍の高さになります。

10 年前、エルゼビアは目録システムを持つ図書館と非常に似たウェブサイトを立ち上げました。当時、エルゼビアの試みの多くは、経験に基づく推測でした。以来、時代は変わりました。現在、エルゼビアはユーザーと緊密に協力し、世界の 30 以上の機関や企業で構成する開発パートナー・プログラムを有しています。これらの機関や企業は、常にエルゼビアが新しいコンセプトを考案し、ソリューションをテストするのを手助けすることによって、製品やサービスに利用者のニーズを反映させています。

>> 3 ページに続く

関係を見つける：利用、支出、研究成果

イアン・ロウランズ (Ian Rowlands) 博士、デヴィッド・ニコラス (David Nicholas) 教授と英国 CIBER (Centre for Information Behaviour and the Evaluation of Research: 情報行動・研究評価センター) の研究グループは、このほど「E-journals: Their Use, Value and Impact (電子ジャーナル: その利用、価値、影響)」と題した予備レポートを発表しました。ここではロウランズ博士が、そのレポートに書かれている研究結果に関する見解を、ライブラリ・コネクトの読者に示してくださいました。

ー クリサアン・ロウ (Chrysanne Lowe)、エルゼビア、グローバル・カスタマー・マーケティング担当バイスプレジデント、米国カリフォルニア州サンディエゴ

クリサアン・ロウ：新しいレポートに書かれている研究がまだ途中であるにもかかわらず、既に注目すべき結果を発表されていますね。いくつかご紹介いただけますか？

イアン・ロウランズ：最初に気づいたことの1つは、電子ジャーナルにかかる図書館の支出と利用の強い相関関係です。この相関関係は、実はそれほどわかりきったことではありません。世界中で年間約 80 億米ドルが学術ジャーナルに支出されています。私たちの研究で実証された支出と利用の強い相関関係は、電子ジャーナルが単に図書館を完全にするために購読されているのではないことを示唆しています。

そして、利用と研究成果の間にも相関関係を発見されたのですか？

はい。大学の規模を考慮に入れても、ダウンロード数が多い大学ほど、多くの博士号を授与し、多くの論文を発表しているように見えます。これが単なる偶然かどうかは、調べてみなければわかりません。

さらに、データの当初の分析を見ると、ダウンロード数と大学に与えられる研究助成金額の間に有意な傾向を見出していらっしゃいますね。

はい。この明らかな相関関係も大学の規模には関係がありません。もっと調査が必要ですが、確かに興味深いものです。

なぜ利用、支出、研究成果の関係を調べようとなされたのですか？

お話ししましょう。私たちは、英国のある大学図書館員とよく話します。彼女は、毎年学長のところへ行って「予算を 5~10%ほど上げていただけますか」と頼むのですが、今年は学長に断られました。学長は今年、すぐに見返りがあるという理由で、駐車場の建設にお金を使うことにしたのです。つまり、私たちには、学長が図書館のために小

切手にサインしなければならない理由を主張する根拠が必要なのです。

これまでのところ、調査の結果は期待どおりですか？

この研究を始めたとき、とにかくどんな質問をすればよいのかわかりませんでした。電子ジャーナルの分野全体が、技術的進歩という意味でも成長という意味でも、早い速度で変化しているからです。デジタル図書館の歴史はせいぜい 15 年で、電子化は、印刷機の発明以来、図書館環境における初めての大きな変化です。歴史的観点から言えば、私たちはやっとこの新しい環境に慣れ始めたばかりだと言えます。

どんなデータを使う必要がありましたか？

電子出版と資料への電子アクセスが増えているということは、大学、学部、個人がその資料をどのように使用しているかに関する膨大な量の情報を収集できるということです。英国では、さまざまな公的機関が図書館に対する投資の統計データを収集しています。各大学が電子ジャーナルの購読、あるいは最近ではフルテキストのダウンロードなどのリソースにどれだけ投資しているか、それらのリソースがどのように利用されているか、などです。英国の各大学で、そして各学術分野での博士号の授与、研究助成金、発表論文に関するデータも収集することができました。最後に私たちは、英国の各大学の ScienceDirect と Oxford Journals のログにアクセスすることを許されました。そしてディープログ解析を行い、ユーザーがどのように、どこから、どれだけの時間、情報にアクセスしているかなどを確認しました。

つまり、これはデータ駆動型の研究だったのですか？

はい。予備レポートは、2006 年 9 月から 2007 年 8 月までに、英国の 112 の大学から収集したデータに基づいています。基本的には定量的な作業でした。何の先入観もなく、データを集めて、現れたパターンを調べただけのことです。

>> 4 ページに続く



Ian Rowlands

<< 2 ページから続く

ScienceDirect 自体も、過去 10 年に大きく変化し、進化しました。新しい特徴だけでなく、ユーザーの行動の変化に対応する機能も加わっています。たとえば 10 年前は、特定のボタンをクリックすると何かが変化することを明示しなければなりませんでした。今では、これは当然のオンライン動作です。近年、最も重要なことは、印刷体の論文よりも高い価値を加えること、つまり、ビデオ、音声、背景データなど、論文に関連するファイルを提示することです。

未来を見据えて

現在、エルゼビアは、コンテンツ本来の価値を高めるため、セマンティック検索技術と視覚化技術を専門とする企業との提携を模索してい

ます。こうして 10 年後の ScienceDirect はどうなっているでしょうか。エルゼビアの ScienceDirect 製品管理担当バイスプレジデントであるラファエル・シディ (Rafael Sidi) は、次のように語っています。

「今と変わっていることだけは確かです。技術的な変化が、研究者や研究のワークフローと関わりあう新しい可能性と革新的な方法を開きつつあります。今は、この業界で将来のソリューションを作り上げていくことが、非常に楽しい時代です。」 LC

✉ l.belfield@elsevier.com

🖱 <http://info.sciencedirect.com>

<< 3 ページから続く

他にどんなことが発見されましたか？

最も印象的だったのは、ユーザーが ScienceDirect の外から、Google (Scholar) や PubMed などのゲートウェイを経由して検索を開始する傾向にあることでした。セッションの長さや研究評価 (h 指数) の間に統計的関係があることもわかりました。研究者は、評価が高いほど、短い時間で情報を取得しているようです。評価の高い研究者は、サードパーティーの検索サービスを利用し、他の研究者よりもターゲットを絞り込んでいる傾向にあります。また、同じテーマの研究者は、大学が異なっても研究において同様の行動パターンを見せました。しかし、研究テーマの異なる研究者の行動パターンには顕著な違いが見られました。

『学長は今年、すぐに見返りがあるという理由で、駐車場の建設にお金を使うことにしたのです。』

さて、予備的な結果は出ていますね。次は何ですか？

第 2 段階では、見つけた関係やパターンをもっと詳しく調べるとともに、過去 4~5 年に遡って研究の時間枠を広げたいと思っています。利用、支出、研究成果の間に統計的な相関関係があることは既にわかっていますが、それが単なる偶然かどうかはわかりません。また、それらの関係が実在すると証明できたら、それらが「どんな方向に向かっているのか」という疑問も追及してみたいと思います。たとえば、優秀な研究者が図書館サービスに対する需要を生み出しているのか、図書館への投資が研究の成功を導いているのか、などです。

この研究にどのような結果を期待していますか？

一般に感じられることですが、出版社は、ピアレビューの実施などによって提供する付加価値を、もっと強く主張できるのではないでしょ

うか。他の形態の出版より需要が限定され、それほど変動しないので、学術ジャーナルの出版に関わるプロセスやコストをもっと透明にすべきです。実のところ、科学コミュニティ全員（学者、出版社、図書館員）が自身の提供する付加価値をもっと主張できると思います。

たくさん出版社と図書館員が、そのアドバイスを採用するかもしれませんね！

私たちの予備研究は、その手助けとなるでしょう。学術出版社や図書館員のみならず、この予備研究に非常に興味を持っていただけると思っています。利用者の行動だけでなく、ジャーナルとサービスの妥当性やユーザビリティについても新鮮な見解を提供しているからです。予備レポートの対象期間中、調査した英国の大学では 1 億 200 万件的論文がダウンロードされました。これは資料が使用されている証拠です。この研究の第 2 段階では、さらに広範囲にわたる結論を支持する、もっと説得力のある証拠を提供できるはずです。 **LC**

✉ i.rowlands@ucl.ac.uk

🌐 www.rin.ac.uk/use-ejournals

🌐 www.ucl.ac.uk/infostudies/ian-rowlands

🌐 www.publishing.ucl.ac.uk

出典

Interview with Dr. Ian Rowlands by Gary Rudland, February 17, 2009, for *Editors' Update*, Volume 26 (www.elsevier.com/editors/issue26a), and interview with Dr. Rowlands by Chrysanne Lowe, on March 27, 2009.

エルゼビアがSciValを発表：業績計画・資金調達ソリューション

英文オリジナル5ページ

ダニエル・カルト (Daniel Calto)、エルゼビア製品管理担当ディレクター、米国ニューヨーク州ニューヨーク

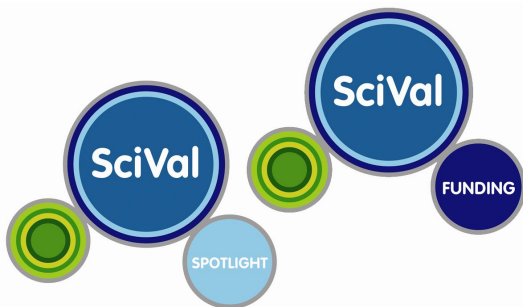
2009年、エルゼビアは、研究者や機関の意思決定者が、研究方針を評価、決定、実行するための情報ツールやワークフロー・ツールの提供を開始します。

これらの新しいツールは、機関のリーダー、研究者、運営者が、研究大学や研究所の目標を達成する、すなわち癌研究から数学、発展途上国の経済まで、重要な分野の知識を生み出し、高めていくのを支援する革新的なソリューションとなります。

今年から展開する新しいSciValブランドのもとで、エルゼビアは、研究機関のあらゆるレベルの業績計画ニーズに対応する幅広いワークフロー・ソリューションを提供する予定です。このソリューション・スイートにより、大学や政府機関は、研究ポートフォリオを深く理解し、効果的に管理することで、最終的には研究事業のクオリティと有効性を高めることが可能となります。



Daniel Calto



SciVal Spotlight と SciVal Funding

今年、エルゼビアが最初に発表する新しいソリューションは、SciVal Spotlight と SciVal Funding です。SciVal 製品はすべてそうですが、これら2つも研究者個人から研究運営者、研究機関の上層部まで、研究コミュニティのフィードバックに基づいて設計されています。

SciVal Spotlight では、機関のリーダーがその機関の得意とする分野を見極め、Scopus から導いたクオリティの高いデータに基づいて重要な決断を下すことができます。

SciVal Spotlight によって得られる情報と見識は、以下に役立ちます。

- 得意とする研究分野、将来有望な分野の特定。他の機関と業績を比較する基準として使用できる。
- 新しい研究の可能性の特定。学際的な視点で専門性の高い領域を表示できる。
- 競争上の地位の確認。各研究分野で主要なライバルと業績を比較し、研究上の優位をライバルに奪われる可能性のある分野を判断できる。
- 協力者を探す。研究協力の有望な相手を判断できる。

SciVal Funding は、大学院生からベテランの教員まで、機関のあらゆるレベルの研究者が切実に必要とする資金調達の総合的な情報を提供します。過去の発表論文に基づき、ターゲットを絞った有望な可能性を提示するだけでなく、助成金獲得者の詳細情報やその助成金を受けて執筆された論文なども表示します。この情報は、資金調達の非常に難しい環境の中で研究者が資金を獲得する可能性を高めるとともに、研究管理者にとっては、助成金提供の傾向を分析し、認められる可能性の高い助成金申請書の作成を支援します。

エルゼビアが最初に発表する新しいソリューションは、SciVal Spotlight と SciVal Funding です。

今後の流れ

SciVal Spotlight と SciVal Funding に続き、研究管理を目的とした他のソリューションも現在開発中です。これにより大学は、それぞれの研究ポートフォリオを効果的に管理し、個々の教員の生産性を正確かつ柔軟な基準で記録することができます。

また、政府機関のニーズに焦点を絞った SciVal Spotlight のバージョンも、計画段階の早期にあります。エルゼビアは、お客様のニーズを満たす長期計画を持ち、他の新しいソリューションの可能性も模索しています。

SciVal Spotlight または SciVal Funding の詳細については、エルゼビアのアカウント・マネージャーまたはマーケティング・マネージャーにお問い合わせください。 **LC**

✉ d.calto@elsevier.com

🌐 www.info.spotlight.scival.com

🌐 www.info.funding.scival.com

🌐 www.elsevier.com/contacts/librarians

今年から展開する新しいSciValブランドのもとで、エルゼビアは、研究機関のあらゆるレベルの業績計画ニーズに対応する幅広いワークフロー・ソリューションを提供する予定です。

参考資料

Katz, N. (2009, January). Visualizing research performance: Bringing strategic insight to research management. *Library Connect Newsletter*, 7:1.

<http://libraryconnect.elsevier.com/lcn/0701/lcn070109.html>

Stallinga, J. (2009, January). Funding intelligence tool: Launching soon to provide a better grip on the funding landscape. *Library Connect Newsletter*, 7:1.

<http://libraryconnect.elsevier.com/lcn/0701/lcn070113.html>

厳しい時代に新しい図書館を開く：その理由と経緯

英文オリジナル6ページ

デヴィッド・タイコソン (David Tyckoson)、カリフォルニア州立大学フレズノ校副図書館長、米国

2009年2月20日、当大学の新しいヘンリー・マッデン図書館 (Henry Madden Library) がオープンしました。360,000平方フィートの敷地に1億500万米ドルをかけて建設されたこの図書館は、フレズノ市では史上最大の学術プロジェクトでした。カリフォルニア州立大学のキャンパスでも最大の図書館です。



David Tyckoson

世界経済がひどい不況 (恐慌と呼んでもいいかもしれませんが) にある時代、あらゆる大学と図書館が予算を削減されている時代に、なぜ実現したのでしょうか。「何でもインターネット上にある」時代に、なぜ図書館を建設し、しかもキャンパス最大の建物としたのでしょうか。この不況の風を受けて、プロジェクトが壁にぶつかることはなかったのでしょうか。

これからお話することが、厳しい経済情勢下で新しい図書館の完成あるいは着工に取り組む他のみなさんの役に立つことを祈っています。

長年のニーズを満たす

新しい図書館は2009年にオープンしましたが、それまでには長い道のりがありました。前図書館長のマイケル・ゴーマン (Michael Gorman) は、1989年の就任以来、大学の運営幹部と協力し、新しい図書館の必要性を訴えていました。古い図書館の建物 (1956年に開館、1981年に増築) は、ずいぶん前から限界に達していました。書架は座席のあるべき場所まで占領し、建物は現在の情報技術が想像もされなかった時代に建設されたものでした。建物の改築または増築は、もはや不可能でした。新しい図書館の建設は、年が経つにつれ、大学に建設すべきもののリストのトップに上りました。

確固たる資金の獲得

資金源を失えば、資本投資プロジェクトはあっという間に崩壊してしまいます。もし、プロジェクトの途中で予算が削減されれば、大学のニーズを本当に満たす大規模な建物のビジョンが崩れ、今の建物と大して変わらない建物に終わってしまう可能性があります。

フレズノ校では、確固たる資金源が見つかるまでプロジェクトを開始しませんでした。このプロジェクトの資金は2003年の州債権でした。図書館長と大学理事長の尽力により、フレズノ市の新しい図書館は法案55によって9,000万ドルを割り当てられました。この州債権の発行が議会で承認されて初めて、図書館の建設プロジェクトは動き始めたのです。

現在だけでなく、将来も長く使える設計

資金が確保されると、いよいよ大変な仕事が始まりました。21世紀の図書館はどんなものでしょう。どんなサービス、技術、特徴が、新しい図書館の構造に必要でしょうか。今日、最高の図書館を建設するのでしょうか。それとも、今日も、明日も、ずっと先の将来も使える建物にしたいのでしょうか。これは微妙なバランスの活動であり、明確な答えはありません。

フレズノ校では、時代とともに成長し、進化する建物にしたいと考えました。そして、将来のニーズに対応すると思われる設計上の特徴をいくつか取り入れることにしました。たとえば柔軟なオープン・スペースを設け、どこでもテクノロジーを利用できるようにするなどです。

現実的なスケジュールと問題の想定

州債権発行の法案が2003年3月に可決されると、ロサンゼルス建築家、A・C・マーティン (A.C. Martin) 氏が雇用され、基本デザインが作成されました。既存の建物は使わない計画だったので、2005年に移動、2006年に取り壊しました。私たちは、2008年5月まで1981年の増築部分を使用し、その時点でそこを改装するために完全に退去しました。プロジェクト全体は、2008年12月末に完成予定でした。

2008年5月から12月まで、図書館のサービスは最小限の物理的スペースで提供せざるを得ませんでした。本はすべてキャンパスから12マイル離れた倉庫に移動され、リクエストに応じて取り寄せられました。レファレンス・サービスと貸し出しは、一時的な場所で行われ、スタッフはキャンパス中に分散し、大半はモジュラー・ユニット (トレーラーなど) に移動しました。図書館の説明をする教室はありませんでした。こうして時にはストレスのたまる状況の中で、すべての図書館サービスが継続されました。

確保した資金さえも揺らぐ

2008年12月、カリフォルニア州知事は、州予算の危機によって、州のすべての建設プロジェクトの中止を発表しました。私たちの資金源は2003年の州債権でしたし、プロジェクトはそのとき99%終了していたので、影響はないだろうと思いました。しかし、それは間違いでした。非常に厳しい経済情勢の中では、いったん確保した資金さえ危険にさらされるのです。

厳しい時代こそ、人々は図書館を必要とします。

プロジェクトはほとんど終了に近かったので、大学は建設会社の Swinerton社と交渉し、建物を仕上げてもらうことにしました。残念なことに、新しい家具のほとんどの代金は未払いでした。しかし、割り当てられた資金は今や凍結です。家具に加え、案内板、窓のカバー、ブック・トラックなどの最後の仕上げの代金も、凍結中の資金から支払われる予定でした。

>> 7 ページに続く



新しい図書館のテープカットをするピーター・マクドナルド (Peter McDonald) 図書館長 (中央左) とジョン・ウェルティ (John Welty) 大学学長 (中央右)

<< 6 ページから続く

新しい建物には、案内板も、座る場所も、資料を書架に運ぶブック・トラックもありませんでした。慎重に考慮した結果、私たちはともかく新しい建物をオープンし、できる限り古い家具や賃貸の家具を利用することにしました。そして古いブック・トラックを回収し、案内板を購入しました。新しい案内板には、プロジェクト建設資金ではなく図書館の運営資金を使用しました。案内板は、他のニーズを差し置いても運営資金を使うに値すると思ったからです。図書館の再オープンを導いた決定的要因は、利用者、すなわち学生と教員にフルサービスの図書館を再び提供しなければならないという思いでした。

結論

幸運にも、利用者は古い備品や賃貸家具ではなく、新しい図書館の本質に目を向け、キャンパスにとって学術的に最も大切なものとして捉えてくれました。初日から、利用者は建物に集まってきたのです。本、コン

ピュータ、ジャーナルを手に、人々はあらゆるスペースに座ります。友人と会ったり、コーヒーを飲んだり、図書館を探検したり。開館前は、大きくて新しい建物でした。教員や学生に利用されて、今は大きくて新しい図書館になりました。

厳しい時代こそ、人々は図書館を必要とします。現在の経済情勢で新しい図書館の資金を獲得することは難しいかもしれませんが、これほどすばらしいお金の使い道はありません。大学であれ、市であれ、国であれ、図書館はコミュニティの中心です。フレズノの新しいヘンリー・マッデン図書館は、今後何十年にもわたってキャンパスのニーズを満たし、適合していくことでしょう。LC

✉ davety@csufresno.edu

🌐 www.csufresno.edu/library

将来も長く使える図書館の設計とは？

ヘンリー・マッデン図書館 (Henry Madden Library) の先進的な設計に学ぶ

- **柔軟なオープン・スペースの設置。** できる限り固定された壁は使わず、オープン・スペースを大きく取りました。これによって将来のニーズに対応する柔軟性が得られます。
- **資料ではなく人のための建物。** できる限り利用者の座席を望ましい場所(窓の近くなど)に置き、資料、事務所、その他の部屋はそれほど快適でない場所に配置しました。また、資料用のスペースを最小限に抑え、利用者のスペースを広げました。図書館の1つの階全体を、オープン・アクセスの集密書架としました。ここには、140万冊の所蔵図書を収容できます。パブリック・アクセスの集密書架を1つの階に集めたものとしては、米国最大の規模となります。
- **至るところにテクノロジー。** 多くの新しい図書館では、建物の1か所にテクノロジーを集中させています。私たちは逆の方法を取りました。どこでもテクノロジーを使えるようにしたのです。この結果、図書館のどこにもコンピュータの大きな列はありません。実は、設置してあるコンピュータの数は古い建物より少なくなりました。ワイヤレス・ネットワークのおかげで、利用者は自分のラップトップ・コンピュータを持ち込むか、200台以上の貸し出し用ラップトップを使い、好きな場所に座ることができます。未来のテクノロジーがどんなものになるかわかりませんが、今と異なることは確かです。新しい建物が2009年のテクノロジーに束縛されることを、私たちは望んでいません。
- **さまざまなユーザー・スペース。** 新世紀世代、ジェネレーションX、ジェネレーションYの分析は数々ありますが、すべての利用者が同じではありません。静けさを好む人も、騒がしさを好む人もいます。1人で勉強するのが好きな人も、グループ勉強が好きな人もいます。人の姿が見え、人から見えるところが好きな人も、隠れたい人もいます。コンピュータが必要な人も、自分で持ってくる人もいます。ユーザー・スペースの設計では、この違いを考慮し、利用者が自分の学習スタイルに合った場所を選べるようにしました。
- **特別なイベントのためのスペース。** 図書館は単なる本とコンピュータの集まりではありません。社交の場でもあります。図書館をキャンパスの中心にするため、私たちは展示やイベントのためのスペースを作りました。さまざまな大きさや形状の部屋があれば、学部と協力して会議、講演、コンサート、その他のイベントを開くことができます。人が自分たちのイベントを開きたいと思う場所にするだけで、図書館は大学全体の中心となり、将来的な支援を広く確保することができるのです。



ヘンリーマッデン図書館

運営母体に図書館資金を求めるロビーイング：明確に意思を伝え、図書館擁護者を活用する 英文オリジナル7ページ

シャオグアン・ヤン (Xiaoguang Yang)、北航大学図書館長、中国北京

図書館が生きるためには、十分な資金が必要です。北航大学（旧北京航空航天大学）は、専門学校から総合大学へと劇的な変化を遂げつつあります。

この変化は図書館にとっても大きな試練です。私たちは現在、生物化学、工学、法学、経済学、文学など、新たに設置された学部に対応する資料を整備するため、さらなる資金を集めようと苦心しています。

一言で言って、この時期に図書館資金を得るためのロビーイングをするのは、館長にとってやさしいことではありません。

中国の大学図書館は運営母体に資金的に依存するのが普通で、外部に資金源を持つことはまれです。私は、2005年から図書館長を務めている間に、運営母体に図書館資金を求めてロビーイングする際、成功率を高める戦略を経験から学びました。

大学図書館の資金を求めるロビーイングを成功させる2つの戦略は、以下のとおりです。

1. 図書館への出資母体に明確に意思を伝えること。
2. 図書館の擁護者を活用すること。

まず、明確に意思を伝えるとは、運営母体、特に図書館と財務を担当する副学長に、図書館の資金的ニーズと現状を常に伝えておくことです。明確に意思を伝えることには、緊密な関係を築くことも含まれます。図書館長が図書館の出資母体と緊密な関係を持っていれば、大学の年間予算や方針をよく理解できます。そうすれば、建設的で容易に

承認される図書館予算案を提出することができるわけです。

次に、図書館の擁護者に宣伝を依頼することは、図書館の価値を大学に伝え、資金を確保する効率的な方法です。私たちはよく、各学部の主要な教授に図書館の良い評判を大学全体に広めてもらいます。主要な教授の言うことは、学長にさえ大きな影響を与えることがあります。

一言で言って、この時期に図書館資金を得るためのロビーイングをするのは、館長にとってやさしいことではありません。1つ問題を解決すれば、別の問題が生じてきます。現代の図書館長は、十分な予算を得るよう苦心するだけでなく、さまざまなニーズのバランスを取らねばなりません。しかし、ほんの少しの戦略が大きく役立つこともあるのです。LC

✉ yxg@buaa.edu.cn
 🌐 www.buaa.edu.cn



図書館の前に立つ Xiaoguang Yang氏

>> 9 ページから続く

教員が図書館調査プロジェクトや指定参考資料の読解を宿題に出す限り、ある程度、学生は嫌でも図書館に行かざるをえません。しかし、これが持続可能なモデルでしょうか。学生の世代が新しくなるにつれ、図書館は価値を失うのではないのでしょうか。ノスタルジックな理由でのみ存在する古臭い施設と思われるのではないのでしょうか。高等教育および公共の福祉に広く貢献していることを明確に説明しない限り、そうなる可能性は高いと思います。

大学図書館は、『Rocky Mountain News』の二の舞にならないよう、常に自身を改革する必要があります。

大学図書館の価値を定義する

図書館と図書館員の価値とは何でしょう。学生が本を買わずに借りて済ますための無料「書店」や本の番人ではないはず。むしろ図書館員の本職は、情報を探し、知識を管理することです。

私たちは、パッケージや形式に関係なく、所蔵資料を構築し、共有することによって、利用者が情報源を発見し、入手する手助けをします。また、利用者の情報リテラシー、すなわち図書館員の仕事と価値を特徴づける重要な専門的知識の向上に努めます。

図書館員は、学生に学習の方法を教え、それによって学生の学術的成功に貢献します。重要な思考のスキルを磨くことは、教室、職場、人生で何かを成し遂げるために欠かせません。このためには、従来の「1回限り」の図書館トレーニングに甘んじてはなりません。図書館の目録や各種データベースの検索方法を、不定期に単発的に教えるだけでは、学生全体の情報リテラシーを高めることはできないからです。

リーダーシップを取る

図書館員は、大学においてリーダーシップを取る必要があります。学習を促進するために教員や大学管理部と協力し、カリキュラムに浸透した包括的な情報リテラシー・プログラムを実施し、明確な成果を上げるべきです。そうすれば、学生の成績や大学の使命に対する大学図書館員の貢献が、否定できないものになるでしょう。

経済的、技術的、社会的、政治的な課題を抱える現代、私たちは、学術的役割と責任を再定義し、図書館と図書館員を改革する差し迫った必要性に迫られています。LC

✉ denise.pan@ucdenver.edu
 🌐 <http://library.auraria.edu>

NEXT GEN

大学図書館が研究者の時間と資金を節約する

英文オリジナル 8 ページ

ジャック・M・マネス (Jack M. Maness)、
コロラド大学ボルダー校、工学図書館副館長、米国

私の図書館のスタッフが、最近、環境工学を学ぶ
大学院生から大変な褒め言葉を頂きました。

「優れた研究大学がレファレンス・デスクなしに
存在することは想像できない」というような意味
でした。

そこでハッとしました。この学生は、自分の研究
と学習における図書館の価値を明確に理解してい
ます。でも、なぜでしょう。そのように感謝して
いるのは、当図書館が何をしたからでしょうか。
どうすれば、その価値を他の人にも伝えることができ
るでしょうか。



Jack M. Maness

分館責任者のエミリー・フィデルマン (Emily Fidelman) が行ったこ
とは、2つでした。1つ目は、環境保護局が無料で提供するデータを綿密
にチェックし、学生が長い時間探しても見つけれなかったものを見つ
け出したこと。2つ目は、学生の研究チームが必要としている技術規格
を図書館が所有していないと判断し、購入を検討するよう図書館に提案
したことです。

学生が喜んだのも無理はありません。彼女は、図書館員として喜んで
時間を費やただけでなく、学生の研究に役立つ資料の購入を図書館
に働きかけました。この学生は、価値ある手助けを得ました。時間と
お金という2つの形で提供される価値です。

時間で価値を示す

時間は、この社会で驚くほど価値のある商品です。もちろんそれは、
需要が供給を上回っているからです。この国の大学の講師も学生も、
例にもれず、時間に追われています。彼らは人類の暮らしを良くする
ために苦労しているのであり、彼らが成功するために十分なサポー
ト・システムを整備する必要があります。図書館もそのようなシステ
ムの1つです。そして図書館が彼らを支援するためにしていることの
1つは、彼らの時間を節約することです。エミリーがこの学生のために

提供したようなサービスは、図書館利用者が使える時間を増やします。
利用者はこの価値を明確に認識するでしょう。図書館と図書館員で構
成されるサポート・システムが、学術コミュニティの成功を可能にす
るのです。

お金で価値を示す

この学生が必要としていた規格は、ひどく高価なものでも、見つける
のが難しいものでもありませんでした。しかし、価値のあるものです。
なぜなら、それに含まれる情報が学生の成功に必要なサポート・シス
テムの一環だったからです。そして図書館は、喜んでその価値を提供
しました。

今日の情報世界では、図書館のもたらす価値のこの点が、ベテランの
研究者にすらあまり理解されていません。検索エンジンや出版社のウ
ェブサイトが価値ある情報を学生や講師に提供することが多いため、
価値を提供する図書館の役割が薄れてきているのです。しかし、図書
館が所有していなかった資料を購入することにすると、価値は
明らかです。今回の場合、図書館が提供したお金という価値が明確に
示されました。

図書館の価値を伝える方法

私は、授業をしたり、レファレンス・サービスを提供したり、学生や
教員とおしゃべりをしたりするとき、時間とお金という2つの形で図書
館の価値を伝えようと努めています。つまり、図書館のサービスが学
生や教員の「肩代わり」をし、時間を節約しているというわけです。
また、個人や学部では買えないような情報を図書館が代わって購入す
ることで、「気づかないうちにお金を節約している」と説明します。

複雑でお金がかかって、なおかつ変化の絶えない情報世界と利用者
を結ぶ役割を図書館が果たしていることを、学生や講師に理解してほ
しいと思います。それを理解すれば、自分たちの時間とお金を節約して
くれている図書館の価値も理解することでしょう。大学図書館が研究
者の時間とお金を節約している限り、これからも図書館は価値を提供
し、価値を認められていくことと思います。LC

✉ jack.maness@colorado.edu

🔗 <http://ucblibraries.colorado.edu/engineering/index.htm>

図書館と図書館員の価値を伝える：大学においてリーダーシップを取る

英文オリジナル 9 ページ

デニス・パン (Denise Pan)、コロラド大学デンバー校、オーラリ
ア図書館テクニカル・サービス担当副館長、米国

日常生活と図書館員としての生活には、必然的に類
似点があります。どちらの世界でも、実績ある企業
や機関が、昨今の経済情勢と技術的進歩によって存
続を脅かされています。

大学図書館の持続性を問う

どんな大学図書館でも、大学関係者が図書館を
「キャンパスの中心」と認めているものと安心して
いるわけにはいきません。大学図書館は、



Denise Pan

『Rocky Mountain News』の二の舞にならないよう、常に自身を改
革する必要があります。このデンバーの地方紙は、創刊150周年を2カ
月後に控えた2009年2月27日に廃刊しました。社説では、この破綻に
複雑な原因があったと論じていましたが、根本的な原因はテクノロジー
だったのでしょうか。オンラインで無料のニュースが読め、告知欄
はcraigslist.orgを見れば済むようになって、購読する理由がなくなっ
たのでしょうか。

図書館の利用者も同様に考える可能性があります。「何でもインター
ネット上にある」のに、図書館に行く理由があるのでしょうか。

>> 8 ページに続く

BrainNavigatorが、これまでにない明確さで脳を視覚化

英文オリジナル13ページ

ヨハネス・メンツェル (Johannes Menzel) 博士、エルゼビア、
ニューロサイエンス & イノベーション製品担当パブリッシャー、
英国ロンドン

世の中で最も複雑な構造は何でしょうか。そうです。人間の脳です。

成人の脳は約1.4キログラム、ラットの脳は約2グラムです。サイズは大きく異なりますが、構造は非常に似ています。神経科学者は、まさに自然の驚異である脳を理解しようと研究を重ねる際、よくラットや他の動物の脳を研究します。サイズがどうであれ、脳の1,000以上の構造の中をうろろしていると、迷子になってしまうこともよくあります。



BrainNavigator

忙しい科学者が合理的に研究を進めることができるよう、エルゼビアは、オンラインのインタラクティブ3Dソフトウェア・ツールであるBrainNavigatorを開発しました。これは、日常的な研究のクオリティを高めつつ、時間を節約します。GPSが場所を見つけるのに役立つのと同様、BrainNavigatorは、脳内で各構造のある場所を表示し、脳の視覚化と理解に貢献します。

元来、研究者は、プローブを配置したり、顕微鏡で脳組織の断面を見たりする際に、大判の印刷版アトラスに頼っていました。今後はBrainNavigatorのおかげで、ページ上の平面図としてだけでなく、奥行きのある物体として脳を視覚化し、必要に応じた方法で表示することができます。

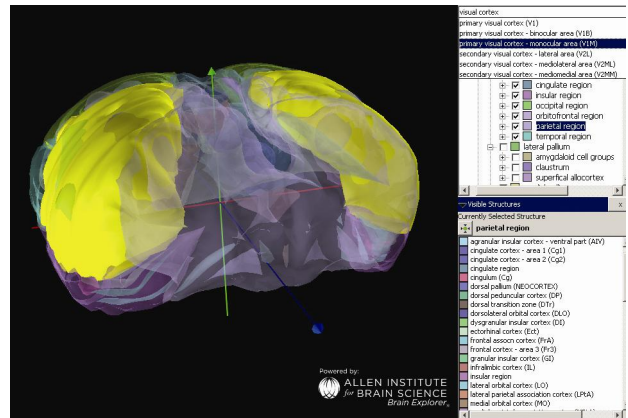
脳地図に対する新しいアプローチを開発

BrainNavigatorの開発を始めるために、エルゼビアはまず社内のユーザー中心設計の専門家と神経科学者と引き合わせ、神経科学者の日常作業におけるニーズを十分に理解させました。これにより、神経科学がこのツールを待ち望んでいることがわかりました。

神経科学者は、高解像度の資料をブラウズし、比較したり、ラベル付けしたりできる使いやすいオンライン・システムを求めていました。また、比較のために自分の画像をアップロードしたり、自分の研究に注釈を入れたり、他の研究者と共有したりする方法も必要としていました。もう1つ求められていたのが、脳の構造を容易に表示する機能を維持しつつ、脳を3D表示する高度な機能でした。いつでもどこでもアクセスでき、更新がすぐに入手できて、迅速、容易かつ正確な研究を可能にするには、オンラインでの配信が重要です。

エルゼビアは、Allen Institute for Brain Scienceが、優れた脳地図を描く技術を開発したことを知っていました。そして、多くの本やジャーナルからの情報を含むエルゼビアの膨大な神経科学系コンテンツと、Allen Instituteの最先端のBrain Explorer®テクノロジーを組み合わせる共同開発が始まりました。その成果が、BrainNavigatorです。

BrainNavigatorは、日々、学術情報に頼っている何万人もの脳研究者にとって、またとない重要性と利便性を持つダイナミックで新しいリソースです。脳研究の進歩において、さらなる発見への有望な前進と言えるでしょう。無料コンテンツと購読コンテンツの両方を提供するBrainNavigatorでは、すべてのユーザーが画像と脳構造をブラウズすることができます。それに加え、有料の購読者は、高解像度の画像を



神経科学者はBrainNavigatorを使って脳構造の3D表示を確認し、日常の研究作業に役立てることができます。詳細は、www.brainnav.com/info をご覧ください。

使用し、自分の画像に注釈を入れたり、保存したりすることができます。自分の画像を世界中の研究者仲間と共有することも可能です。

好意的なフィードバック

BrainNavigatorの開発中、世界中の大学や研究機関の50人の研究者がテスト・ユーザーとして参加し、製品のユーザビリティやコンテンツについてフィードバックを提供してくれました。ニューヨーク大学神経科学センター (Center for Neural Science) でBrainNavigatorをテストしたクラウディア・ファーブ (Claudia Farb) さんは、次のように語っています。「特定の脳構造を速く正確に見つけられることが、とても気に入っています。構造の名前を入力するだけで、プログラムがそこに導き、ハイライト表示してくれるので、すぐに構造を見つけることができます。この機能は研究に非常に便利であるだけでなく、教えるのにも役に立ちます。特定の脳構造を見つけようとする学生のイライラを軽減し、学生の自主性を育み、教室や研究室で講師が補助する必要性を少なくするからです。」

彼女は続けます。「脳構造をハイライト表示し、3Dで表現する機能は素晴らしいと思います。これによって学生は、解剖学の教科書から得た情報を、脳の働きの総合的な理解につなげることができるからです。たとえば、脳の後部に位置する特定の細胞グループは、残りの部分に対して広く影響を与えます。脳を3D表示することができれば、これらの細胞グループと他の脳構造との関係を理解することが容易になります。」

米国のNPR (National Public Radio) を含む多くのメディアがBrainNavigatorについて報道しました。NPRの番組「All Things Considered」では、2008年11月にBrainNavigatorをテーマにしたインタビューを放送しました。これを聞くには、www.brainnav.com/info のNPRのロゴをクリックしてください。

さらなる前進

2009年5月の最初のリリースでは、BrainNavigatorはラットとマウスの脳について包括的な情報を収録します。今後は人間やサルなどの脳についての情報も収録する予定です。詳しくは、BrainNavigatorのウェブサイトを参照するか、エルゼビアの担当者にお問い合わせください。

LC

www.brainnav.com/info

<http://contacts.elsevier.com>

Q: 出版倫理に関して、エルゼビアはどのような立場を取っていますか？

A: ここ数年、エルゼビアの編集者は、対処しなければならない剽窃の問題が大幅に増えたことに気づきました。エルゼビアは、出版倫理を監視することがピアレビュー・プロセスの重要な役割であり、各ジャーナルの編集長または編集者にその責任があると考えています。

ピアレビューを保護し、強化する取り組みの一環として、エルゼビアの出版チームは、この件に関して編集者にさまざまな支援や指針を提供しています。編集者が直面する出版倫理の問題には、論文著者が許可なしに別の論文の一部を写すこと、別の著者の論文を自分のものであると主張すること、研究を偽造すること、著作者であることについての論争などがあります。



2007年、エルゼビアは、編集者が倫理に関する質問をしたり、対応に援助を求めたりすることができる「倫理ヘルプデスク」を試験的に設置しました。編集者が役に立つツールを求めていることは、そのときに明らかになりました。

そこで2008年、エルゼビアは、編集者用サイト内に出版倫理リソース・キット (Publishing Ethics Resource Kit: PERK) ウェブサイト (www.elsevier.com/publishingethicskit) を立ち上げました。PERKサイトでは、エルゼビアやエルゼビア以外の方針や手続きに関する文書へのリンク、編集倫理濫用のさまざまな形態に編集者が対処するためのフローチャート、さまざまな状況に合わせて使えるテンプレート・レター、Q&A情報などを提供しています。

オンライン・リソースの提供に加え、エルゼビアは出版倫理委員会 (Committee on Publishing Ethics: COPE) に参加しています。

COPEは、学術ジャーナルの編集者や出版社が、ジャーナルに投稿されたり発表されたりした論文の妥当性に関する問題を議論するための場を提供する慈善団体です。ジャーナルをCOPEにかけることにより、編集者は、出版倫理問題に対処する上で、独立した団体から意見を得ることが可能となります。



Helen Gainford



さらにエルゼビアは、CrossRefと協力し、剽窃防止ソフトウェア・プロジェクトであるCrossCheckに取り組んでいます。CrossCheckでは、投稿された論文を2,500万件の出版論文データベースと比較し、類似性チェックを実行します。データベース内の論文と類似性が見つかる場合、CrossCheckが類似のパーセンテージを示したレポートを生成し、類似の見られる部分をハイライト表示します。この春、90タイトルのエルゼビア・ジャーナルがランダムに論文をCrossCheckにかけ始める予定です。成功すれば、さらに多くのエルゼビア・ジャーナルをCrossCheckの対象とする予定です。LC

✉ h.gainford@elsevier.com

▶ COPE: <http://publicationethics.org>

▶ CrossCheck: www.elsevier.com/editors/plagdetect

▶ PERK: www.elsevier.com/publishingethicskit

学術関係者が論文出版を成功させるアドバイスを交換

英文オリジナル14ページ

恒吉有紀、エルゼビア、マーケティング・マネージャー、東京

3月13日、悪天候による交通機関の不通・遅れにもかかわらず、九州大学とエルゼビアの共催イベント、「若手研究者のためのAuthor Workshop」が無事開催され、33名が出席しました。このイベントは、同大学のグローバルCOEプログラム (G-COE) 「未来分子システム科学」との共催で、G-COE国際科学英語の責任者である阿部正明准教授、エルゼビアの『Organic Electronics』ジャーナルのエディターである安達千波矢教授が綿密に計画したものです。

このワークショップでは、同大学の未来化学創造センターのメンバーでもある安達教授の「学術ジャーナルに論文を発表する方法」をはじめ、Edanz Group社のエグゼクティブ・エディターであるチャド・ウォーカー (Chad Walker) 氏の「校閲者から見た、英語論文執筆のコツ」、Scopusの効果的な使い方や電子投稿ツールについての講演が行われました。

このワークショップは、エルゼビアのPublishing Connectイベントを <http://japan.elsevier.com/aw> で見たG-COE事務室の田村さんの問い合わせで実現しました。イベントの後、彼女には次のコメントをい



(左から右) Chad Walker氏 (Edanz Group)、恒吉有紀、竹田政子 (エルゼビア・ジャパン)、安達千波矢教授 (九州大学)、柿田佳子 (エルゼビア・ジャパン)、田村美香氏 (九州大学)、浦口周二、神田奈美 (エルゼビア・ジャパン)

ただきました。「ワークショップは非常に有意義でした。参加者から聞いた感想は、すべて好意的でした。このようなワークショップを再び開くチャンスがあれば、またエルゼビアにお願いしたいと思います。」 LC

✉ y.tsuneyoshi@elsevier.com

▶ <http://japan.elsevier.com/news/events/aw/2009kyushu.html>



エルゼビア・ユーザー中心設計 (UCD) グループのトム・ヌーナン (Tom Noonan) が、ユーザビリティに関する質問にお答えします。

英文オリジナル15ページ

Q: ウェブサイト・デザインの価値は、どのように宣伝すればいいのでしょうか？

A: ウェブサイトを作ったからといって、人が集まるわけではありません。しかし、説得力のあるメッセージを書けば集まるかもしれません。

ページにリンクを追加したり、新しいページを作ったりしても、ユーザーがそのリンクをクリックしたり、そのページを訪問したりする保証はありません。ウェブサイトの新しい機能は便利かもしれませんが、使われない限り、失敗です。ユーザーがその機能を使えるのは良いことですが、それでは足りないのです。問題は、ユーザーが実際に使っているかどうかです。

ユーザビリティは必要ですが、価値や投資収益率を得るには不十分です。価値を生み出すには、ユーザーが重要だと感じる形で価値命題を伝える必要があります。機能が確実に使われるようにするには、説得力をもってユーザーに宣伝しなければならないのです。

「このページを初めてブックマークする人になってください」というリンク・ラベルなら説得力があると思うかもしれませんが、行動を呼びかけるという点では合格です。リンクをクリックすることでユーザーにできることを示しているからです。しかし、ユーザーがそんなことを気にするでしょうか。ターゲットとするユーザーにとって、論文を最初にブックマークすることが大切でしょうか。論文をブックマークすることで他人と競ったりするでしょうか。

それとも、有用な研究論文を見つけたり、その論文をラボのメンバーに紹介したり、世界のどのコンピュータからでも学術リソースにアクセスできたりすることを重視しているでしょうか。特定のリンクをクリックすることで、それができていることに気づいているでしょうか。あなたはそれをユーザーに伝えていますか？

ウェブサイトの機能やコンテンツが的を射せていても、あなたのメッセージが100%の外れかもしれません。そうだとすれば、あなたが作ったすばらしい機能やページにユーザーがまったく気づかず、トラフィックが減ることになります。

なんて残念なことでしょう。それは、説得力のあるメッセージを発することに失敗しているからです。

価値を伝えるには、ユーザーのニーズをしっかりと理解している必要があります。ユーザーにピンと響くメッセージを作る前に、何がユーザーを動かしているのかを知ることが大切です。LC



Tom Noonan

✉ t.noonan@elsevier.com

🌐 www.elsevier.com/librarians/AskUCD

参考文献

Gerrol, S., & Straub, K. (2009). *From convincing to converting: Applying the science of persuasive design to architect the decision space*. Human Factors International, Inc.

Norman, D. A. (2004). *Emotional design: Why we love (or hate) everyday things*. New York: Basic Books.

Schaffer, E. (2009). *Beyond usability: Designing web sites for persuasion, emotion, and trust*. UXMatters. <http://tinyurl.com/cvf64k>

エルゼビア・ジャパン株式会社
 マーケティング 担当：高橋
 〒106-0044 東京都港区東麻布 1-9-15 東麻布一丁目ビル 4 階
 TEL: 03-5561-5034 FAX: 03-5561-5047 E-mail: jp.pr@elsevier.com
 日本語ホームページ: <http://japan.elsevier.com>
 ライブラリ・コネクト・ニュースレター バックナンバー: <http://japan.elsevier.com/news/lc/>